

【脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 参考資料】

あつぎ気候市民会議の構成概略

1. 主催者：一般社団法人あつぎ市民発電所

厚木市 市民協働提案事業として実施

連携：一般社団法人環境政策対話研究所

協力：地球環境戦略研究機関（IGES）

神奈川県環境科学センター

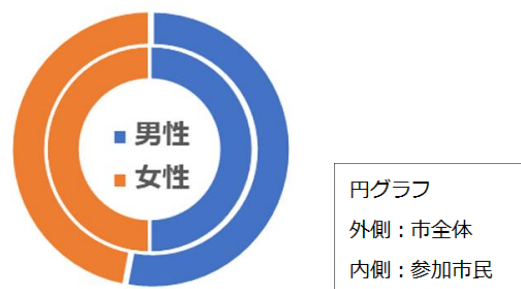
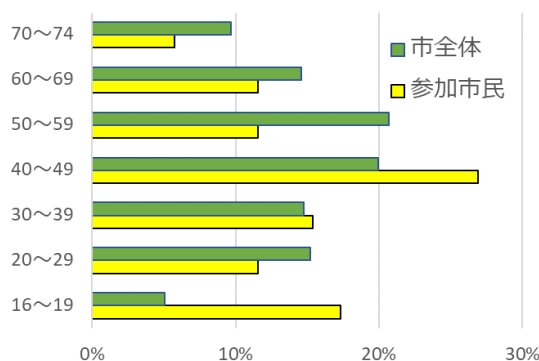
2. 参加市民の選定

住民基本台帳より無作為抽出で 3001 名を選出。（年齢、性別、住居地域が厚木市民の構成比率に合わせて各属性ごとに抽出）抽出作業は市職員が担当。

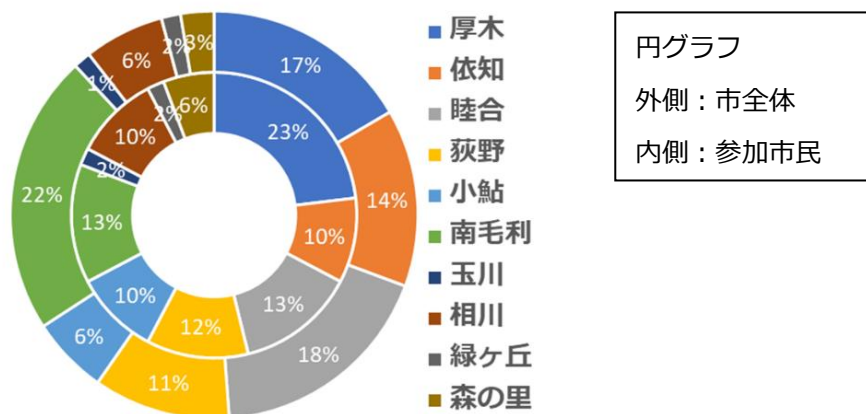
案内を郵送し、436 名から返信、うち 80 名が「参加したい」回答あり。

80 名から厚木市の縮図になるよう 52 名を選出した。

年代	参加市民			割合%	
	男性（人）	女性（人）	計（人）	参加市民	市全体
16-19	5	4	9	17%	5%
20-29	2	4	6	12%	15%
30-39	5	3	8	15%	15%
40-49	7	7	14	27%	20%
50-59	3	3	6	12%	21%
60-69	2	4	6	12%	21%
70-74	2	1	3	6%	10%
計	26	26	52		
参加市民割合%	50%	50%			
市全体%	53%	47%			



地区	人数（人）	参加市民割合	市全体の割合
厚木	12	23%	17%
依知	5	10%	14%
睦合	7	13%	18%
荻野	6	12%	11%
小鮎	5	10%	6%
南毛利	7	13%	22%
玉川	1	2%	1%
相川	5	10%	6%
緑ヶ丘	1	2%	2%
森の里	3	6%	3%
計	52	100%	100%



中途 4 名辞退し、最終人数は 48 名

各会議日程の参加者数（人）

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回
47	44	40	40	36	37

(※以下、敬称略)

### 3. 専門家、情報提供者

- 第1回会議 江守正多 (東京大学未来研究センター教授)  
渡部厚志 (地球環境戦略研究機関 IGES)
- 第2回会議 新井聡史 (神奈川県環境科学センター)  
前場徹 (厚木市まちづくり計画部長)  
山崎尚裕 (厚木市環境政策課)
- 第3回会議 松原弘直 (環境エネルギー政策研究所 ISEP)  
梶田佳孝 (東海大学)  
山本佳嗣 (東京工芸大学)  
村上千里 (消費生活アドバイザー、環境政策対話研究所)
- 第4回会議 遠藤睦子 (あつぎ市民発電所)、木原浩貴 (たんたんエナジー  
株)、小野貴朗 (小田原市環境部ゼロカーボン推進課)、大木俊雄 (日  
産自動車株)厚木テクニカルセンター)、渡會祥 (MONET Technologies  
株)、利光芳明 (神奈川中央交通株)、綿田茜 (エコ窓普及促進会)、伊  
藤敦範 (コム・アソシエイツ)、青砥航次、山本佳嗣 (東京工芸大学)、  
浅利美鈴 (総合地球環境研)、衣川晃 (はちいち農園)
- 第5回会議 浅利美鈴 (総合地球環境研)、二ノ宮リムさち (東海大学)、  
岩崎茜 (東京大学)、鈴木秀顕 (松蔭大学)

### 4. アドバイザー

一般社団法人環境政策対話研究所：柳下正治、村上千里、  
三上直之 (名古屋大学教授)  
川崎市地球温暖化防止活動推進センター 元センター長：竹井斉

### 5. 実施主体 あつぎ気候市民会議実行委員会

統括 : (実行委員長) 鷺谷雅敏、(事務局長) 遠藤睦子  
鈴木秀顕、窪田とも子、大関学

運営委員 : 徳光みく、村越堅吾、石川有南、津森英里花、高橋史帆、山本  
幸子、小林朱見、秋廣誠、大友三昭、市川隆雄、宮原健敬  
(サポーター) 新井範子、井出優子、大友英子、他数名

ファシリテーター：水田悠喜、徳光みく、有村文美、中村文美、岩本紀子、  
小田島梨絵、越地浩氣、小林大介、杉山修、鈴木秀顕、玉造陽  
也、村越堅吾、横谷容司栄  
(サポーター) 阿部綾乃、江本凌太、中川香、三浦響、他数名

メインファシリテーター：岩崎茜  
会議録作成：新海朋子、浅野萌子

### 6. 資金

- 厚木市 市民協働提案事業として 200 万円
- ラッシュジャパン合同会社より助成約 200 万円
- 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金より助成 250 万円上限

## 「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」のできるまで

### 1. あつぎ気候市民会議の進め方と「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」完成まで

#### 「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」のできるまでの経緯

会議（形態）	内容	専門家、情報提供者	人数
第1回 6/18 ①③	オリエンテーション 気候変動問題の全体像 私たちの暮らしと温室効果ガス	江守正多（東京大学・未来ビジョン研究センター教授）、渡部厚志（地球環境戦略研究機関・IGES）	47
第2回 7/16 ①③	神奈川県気候状況、厚木市地域特性、厚木市カーボンニュートラルロードマップ理解、2050年イメージを出し合う	新井聡史（神奈川県環境科学センター）厚木市まちづくり計画部、厚木市環境政策課	44
第3回 8/20 ①③	脱炭素への考え方の基本を知る 4テーマ（A-1;再エネ、A-2;移動・まちづくり、B-1;省エネ、B-2;消費・食・農・廃棄）	松原弘直（環境エネルギー政策研究所・ISEP）、梶田佳孝（東海大学）、山本佳嗣（東京工芸大学）、村上千里（消費生活アドバイザー）	40
(会議後事務局)	分科会 AB の希望⇒事務局で調整		
第4回 9/17 ②③	分科会でテーマ別情報提供を受ける アクションプランを出し合う	各分野から多数（別表参照）	40
(会議後事務局)	グループ会議の内容から素案作成		
第5回 10/15 ①+②③	(全体)シンポジウム 分科会で素案をもとにアクションプランを深める議論	浅利美鈴（京都環境研）岩崎茜（東京大学）二ノ宮リムさち（東海大学）鈴木秀顯・モデレーター（松蔭大学）	36
(会議後;市民投票+事務局)	グループ会議の内容から原案①⇒分科会ごとの投票⇒原案②作成		
第6回 11/26 ①③	全体会 原案②をもとにアクションプラン最終案を作成 マイアクションプランの共有		37
(会議後;市民投票+事務局)	最終案への投票⇒確定		

会議形態；①全体会②分科会③グループ討議

レクチャーや情報提供は会場全体（①②とも）で聴き、討議は③少人数グループ（5～6人を基本）でグループファシリテーター進行のもと行いました。

第3回のレクチャー後に参加市民の分科会への希望を調査し、分科会メンバーを決めました。

第4回、第5回会議後にグループ討議の内容を元に、専門家のアドバイスも入れてアクションプランの素案、原案を事務局で作成し、次の会議に諮りました。

第5回会議後、第6回会議後にはその段階でのアクションプラン案について参加市民による投票を行い、「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」を完成させました。

第6回会議後の最終案に対する投票は、プラン全項目につき2つの視点で行いました。

- ◆ 推進意思を7段階（7;積極的に推進～1;推進すべきでない）
- ◆ 着手時期を4段階（3;2025年までに着手、2;2030年まで、1;2030年以降、0;着手しない）

推進意思4以下が過半数になった項目についてはアクションプランから除外しました。投票結果はアクションプラン本文後半に示します。

## 2. 「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」を作り上げるうえで注意したこと

- 「気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう」を目的にしている。脱炭素だけでなく、豊かで暮らしやすい未来であることが大事。
- 2050年の脱炭素した世界をイメージし、そこに至るために何が必要か「バックキャスト」で考えよう。
- 公正・公平であること、だれ一人取り残さない方法を考えよう。
- 環境や気候問題に関心がなくても、関係のない人はいない。無関心の人でも普通に暮らして脱炭素になるような「仕組みをつくること」を目指そう。
- アクションプランの主語は「市民」であること。  
市民が行うことや、市民が行いたいがそのために必要な条件として行政や事業者と協力を求める、という内容を考えよう。

## 3. 「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」の構成

4つのテーマを4つの章に区分しています。全体に共通する、どうやって普及し実践していくかについて第5章にまとめました。

ビジュアル化できる内容をイラストで見やすく示しました。参加市民の協力による作品です。

## 4. その他

- 1) 「脱炭素マイアクションプラン」: 半年に及ぶ学習と討議を終えた市民が一人一人自分にとって大事なこと、自分に取り組もうと思うことを「脱炭素マイアクションプラン」として出し、参加者同士で共有しました。多くの市民の皆さんにも参考にさせていただきたく、参考資料として示します。
- 2) あつぎ気候市民会議の構成概略は参考資料として示します。
- 3) 各会議での会議録、会議進行と専門家や情報提供者のレクチャーの動画（YouTube）、レクチャー資料などは「あつぎ気候市民会議ホームページ」に掲載しています。⇒



## 2023年11月26日『あつぎ気候市民会議』を終えて



参加市民とファシリテーターのみなさん



参加市民、主催者、専門家、ファシリテーター、事務局スタッフ等集合写真